

「こおりやまの米」通信

平成23年3月26日

編集：郡山市
JA 郡山市 (Tel. 921-0724)
NOSAI 郡山田村 (Tel. 933-3307)
県中農林事務所農業振興普及部 (Tel. 935-1310)

発行：郡山市農作物生産対策協議会 (郡山市営農推進課 Tel.924-376)

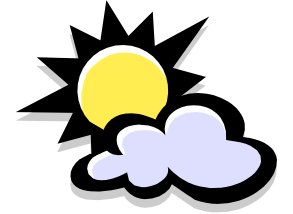


郡山市

イメージキャラクター
「がくとくん」

「Vol.2 育苗後半～田植」次回は5月上旬（田植～本田初期管理）

天気予報 (仙台管区気象台発表 3月23日付け、1か月予報、3月25日付け3か月予報 から抜粋要約)



時期	天 気	気 温
3/24 ～ 4/23	天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が多い見込みです。	平均気温は、平年並または低い確率ともに40%です。
5月	天気は数日の周期で変わるでしょう。	気温は、平年並または高い確率ともに40%です。
6月	平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。	気温は、平年並または高い確率ともに40%です。

緑化・硬化期

1 苗が緑色を帯びるまで

1葉までは強い光を避けます(白化苗防止)。温度は昼25℃、夜15℃とし、高温による苗ヤケと、低温によるムレ苗を防ぎましょう。

2 1.5葉期から

苗が緑色になったら、十分光に当てます。温度は昼25℃～20℃、夜15℃～10℃とし、徐々に自然環境に順応させます。

3 温度管理

ハウスやトンネル内の温度計は苗の高さに設置し、苗箱付近の温度を確認して温度管理をします。

人間が暑くてたまらない温度では、苗はヤケてしまいます。

特に晴天時は、ハウス内の温度が朝は急に上がり、夜は急に下がるので、朝は早めにビニールを開け、夕方は早めに閉めましょう。

4 灌水

原則1日1回、朝にたっぷりと灌水します。万一乾いた場合には昼頃に追加灌水します。夕方の灌水は、地温を下げ根張りを悪くするので、行わないようにしましょう。

5 追肥

中苗は、葉色がさめないよう、2.5葉期ごろに1箱当たりチッソ成分1g程度を追肥します。

また、例年田植え時に風が強く、初期生育が悪くなる地域等では、田植え2日前頃に1箱当たりチッソ成分1g程度を弁当肥として追肥すると活着がよくなります。

【チッソ成分1g/箱の目安】・稚苗用液肥源(15-19-15)約6g/箱

6 プール育苗での注意点

近年、省力技術であるプール育苗に取り組む方が増えてきています。

以下の点に注意してください。

○1葉期までは通常管理をします。水を入れる前は、

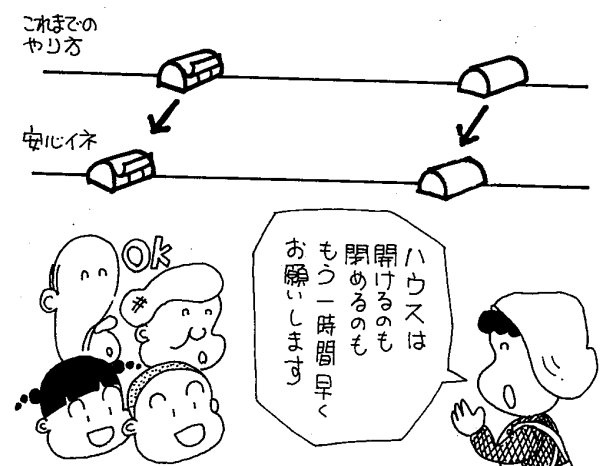
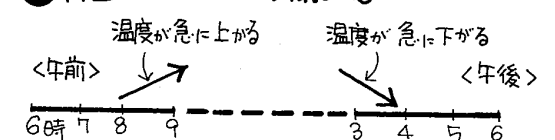
高温になりやすいので注意してください。

○湿害を防ぐため、水は早く入れすぎず、1～1.5葉期になったら水を入れ、昼夜ともサイドビニールを開放します。

○ハウス内温度は低めに管理し、苗が伸びすぎないようにしましょう。

○苗が水没すると生育不良になるので、水深は草丈の半分以下に保ちます。

●育苗ハウスの開け閉めは



雑草防除の再点検を!

最近、田んぼの雑草残っていませんか?

兼業化や作業規模拡大などで適期作業ができない、抵抗性雑草が出ているなどで、雑草を残しているケースがあります。下記を参考に、雑草の発生状況や原因を見極め、対策をとってください。

- ① 除草剤は散布後7日間止水し、流出防止する。
- ② 初期剤または一発剤と中期剤を組み合わせた体系処理。
- ③ 特定の雑草(抵抗性雑草など)が残っている場合、除草剤の変更。
- ④ 塊茎をつくる雑草の場合、秋耕。 など・・・

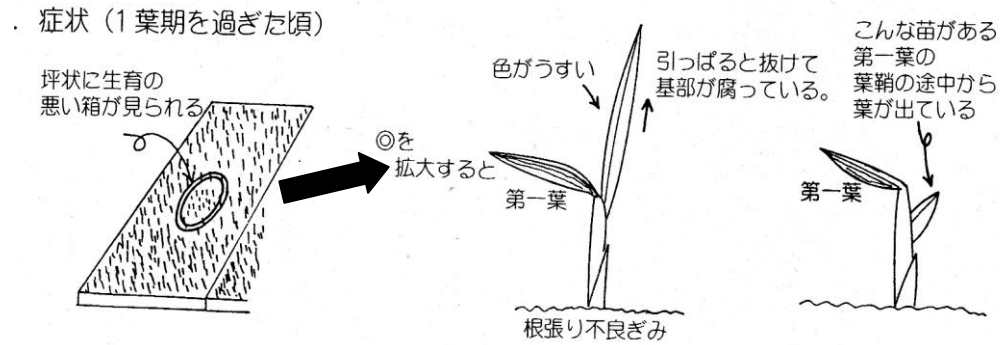
育苗中の病害

【もみ枯細菌病】

症状：1.5～2葉期に急に症状が現れます。坪状に枯れ、第2葉を引っ張ると簡単に抜けます。第1葉のつけ根が白くなることも多くあります。放置すると拡大します。

原因：病原菌は種子、空気中、水中、器具類などに存在します。通常の温度では発病しませんが、催芽、出芽時の高温で繁殖し、感染します。

防除：もみ枯細菌病を予防するための種籾消毒をおこなっていない場合、播種後覆土前にカスミン粒剤を1箱当たり15～20g、種籾の上から均一に散粒する方法があります。もみ枯細菌病が発生してしまったら農薬では防除できません。



催芽や出芽は28℃とし、高温（30℃以上）多湿にならないよう注意しましょう。

また、灌水を通して別の箱へ感染するので、発生箱は直ちに育苗ハウス外へ運び出し、廃棄しましょう。

【カビによる苗立枯病】

耕種的防除：①土のpHは4.5～5.5に調整しましょう。②塩水選を行い感染のない種子を播種しましょう。

③厚播きを避けましょう。④温度管理を徹底しましょう。⑤灌水過多、過湿に注意しましょう。

病原菌	症状	発生しやすい環境	薬剤防除例（500～1000倍液を箱当たり0.5ℓ灌注）	
			防除時期	薬剤および使用回数
リゾプス属菌	表面やもみ近辺に白カビ	出芽時の高温	播種時	ダコニール1000 播種時2回
フザリウム属菌	もみと根近辺に白か淡紅色のカビ。芽の褐変。	緑化開始後の低温	播種時及び発芽後	タチガレン液剤 2回以内
ピシウム属菌	ドーナツ状に枯れる。カビは見えない。ムレ苗の原因。	緑化以降の低温、過湿	播種時及び発芽後	
トリコデルマ属菌	地際やもみ近辺に白～青緑色のカビ。葉の黄化。	高温	播種時1回又は播種時と播種7日後頃の2回	ベンレート水和剤 2回以内

注）薬剤の使用回数は育苗期間中の回数。

本田準備 濁水や稲わらの河川や湖沼への流入防止のため、

「浅水代かき」をおこないましょう

○ロータリー耕を続けると作土が浅くなりがちです。作土の耕深15cmを確保しましょう。

○ケイカリンアップ、ベストソイルなど土づくり資材で、リン酸、ケイ酸、鉄、苦土を補給し、気象変動に強く、食味の良い米づくりに取り組みましょう。

○畦畔の漏水を防止し、除草剤の効果を高めるとともに、低温時の深水管理に備えましょう。

田植え…植え付け本数は1株当たり3～4本程度

○本数が多いと…茎が細くなり、倒伏に弱く、穂も小さくなります。

また、根も酸素不足で細根となります。

○深植えは…下位分げつが発生しにくく、生育が遅れ気味になります。

苗が転ばない程度に浅く植えましょう。

箱施薬…いもち病対策、虫害対策

○箱施薬剤によるいもち病と水田初期害虫の同時防除が省力的です。

○市内でも、本格的にカーバメート系殺虫剤抵抗性ドロオイムシが発生しています。

昨年被害を受けた地域ではプリンス粒剤、スタークル粒剤、ダントツ粒剤等の

非カーバメート系殺虫剤を使いましょう。

また、3年程度を目安に使用する薬剤を変えましょう。

主な防除薬剤（いずれも使用回数1回、1箱当たり50g使用）

①播種前または、播種時（覆土前）～移植当日 … 嵐プリンス箱粒剤6、デラウスプリンス粒剤06

②緑化期～移植当日 … Dr.オリゼスタークル箱粒剤

③移植3日前～移植当日 … Dr.オリゼダントツ箱粒剤、デジタルコラトップアクタラ箱粒剤

※薬剤は、規定量を散布しましょう。

この資料は、平成24年3月21日現在の農薬登録情報に基づいて作成しています。

田植え後は…

補植用の取り置き苗は、いもち病の感染源になるので、補植がすんだら、早めに廃棄して下さい。

地域全体でいもち病の感染源をなくしましょう。



「春の農作業事故防止運動展開中」(4/1～5/31)

○農機用後部反射材などによる事故予防を。

○農作業は無理せず「安全第一」で。

～～～目指せ農作業事故ゼロ～～～

